

第3回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成27年8月14日(金) 午後1時～午後2時8分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 協議事項

- (1) 教育大綱のイメージについて
- (2) ワークショップの進め方について
- (3) その他

4 市側出席者

市長 小紫 雅史 副市長 山本 昇

5 教育委員会側出席者

教育長 中田 好昭 委員(教育長職務代理者) 山本 吉延
委員 村田 浩子 委員 飯島 敏文

6 関係職員及び事務局職員出席者

教育総務部長	峯島 妙	こども健康部長	上野 和久
教育総務課長	真銅 宏	教育指導課長	吉村 茂
生涯学習課	西野 敦	図書館長	向田 真理子
教育総務課課長補佐	井上 博司	生涯学習課課長補佐	錦 好見
スポーツ振興課課長補佐	黒松 裕喜伸	教育総務課(書記)	松井 恵

7 傍聴者 2名

午後1時 開会

○開会宣告

○協議事項

(1) 教育大綱のイメージについて

教育大綱のイメージについて、小紫市長から説明

(質疑)

山本委員：2ページのイメージ図では、市の総合計画と教育大綱の上にマニフェストがあり、マニフェストに基づき教育大綱やアクションプランが作られることが強調されている印象を受ける。

そもそも教育大綱は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき策定されるものであり、この条文では、「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」と述べられている。市長マニフェストは生駒の実情に応じたものであり、大綱にも反映させる必要があると思うが、国が策定した教育振興基本計画の参酌なしに大綱の内容を考えて良いのかということが気になる。

また、大綱を策定する責任者は市長であるが、内容を定めるのはこの総合教育会議であるという意識で参画したい。その意味で、このイメージ図では誤解されないか。大綱は市長と教育委員会が責任を持って策定するものであるので、大綱策定のベースは総合教育会議であるという図が、市民にも理解しやすいと思う。

小紫市長：マニフェストを大綱の1つのベースにしたいと考えているが、それがすべてであるとは思っていない。教育振興基本計画の参酌も含めいろいろな内容を盛り込みたいと考えている。誤解を招くようであれば図を改める。

今日はワークショップについての議論をスムーズに進めたいと思い、教育大綱の構成イメージを示したものである。

山本委員：内容を網羅的にせず、生駒市に特に大切な教育の部分を取り上げるのは結構である。しかし、資料にあるように基本方針を5つ挙げるのは多いと思う。

国の教育振興基本計画では、4つのビジョンと8つのミッションを示している。国としてすべきことを4つに括っているのに対し、市町村単位では4つかそれより絞った方が良いのではないか。

小紫市長：地域に即した課題を考える上で、国の基本方針の数に縛られることはないか。内容を整理する中で数を絞ればそれでも良いと思う。

- 山本委員：基本方針の括り方が難しいが、ワークショップの中で良い言葉が出てくるかもしれない。
- 村田委員：いろいろな自治体の大綱を見てきたが、内容は多種多様であり、基本方針についても、たくさん示しているところもあれば3つ程度に絞っているところもあった。
教育大綱を生駒の教育の方針として掲げるとともに、市民にも大綱を見てもらうにあたり、内容は分かりやすいものでなければならない。他の自治体では、難しい言葉を多用している大綱もあった。誰に示すものかという視点も大事である。
いずれにしても、生駒市らしい大綱になればよいと思う。
- 小紫市長：おっしゃるとおりである。堅苦しくなりすぎないように留意したい。
生駒市らしさについては、ワークショップの実施などの策定の過程にも出したいし、大綱自身の内容にも出したい。
- 飯島委員：資料の3ページに、大綱の基本理念を「総合教育会議やワークショップ等の議論を踏まえ、最後に整理する」とあるが、基本理念を最後にするというのは良いと思う。
地域の実情を踏まえてのマニフェストであるので、現状認識としてより発展させたい部分と改善したい部分があると思う。大綱では、生駒市としての長所と課題を明らかにして、長所を伸ばすためにこうする、課題を改善するためにこうするという書き方が分かりやすいと思う。
- 飯島委員：現在の会議の進め方では、示された原案に微細な修正をしていることが少なくない。教育大綱は、基本理念から基本方針までを会議の中で一から検討して作るというところに価値があり、ワークショップについても生駒市の教育大綱の重要な特徴の一つである。検証や点検評価の段階でも、市民の意見を汲み上げて修正を行う必要があると思う。
- 小紫市長：大綱策定後の進行管理の中で、ワークショップは1回だけでなくてもよいと考えており、2回目に違う切り口でワークショップを実施するのも良いと思う。評価の部分でワークショップをやるかどうかはまだ検討中であるが、違う形にしても市民の意見はいただきたい。
- 中田教育長：生駒市独自の色を出す意味で、協創という方向は良いと思う。
気になるのは、どこまでを教育と捉えるかの守備範囲である。学校教育、社会教育、家庭内教育、スポーツなど多岐にわたるが、一度整理して頭出しをすればまとまるか。
- 小紫市長：基本方針にどのような柱を立てるかによって、メリハリが出てくると思う。教育の中でもどこまで範囲を広げるか、また深めるかを議論する中で、基本方針についても検討したい。
国の教育振興基本計画や過去2回の会議でいただいたキーワードを踏まえて、大綱に入れていきたい。ワークショップでの興味深い意見も期待

している。

山本委員：ワークショップで協創を図るのは良いが、どうしても話が拡散的になり、整理しきれない意見がたくさん出ると思う。全体会では提案についての審議が中心になるが、一番大変なのは提案資料を創る作業である。よくあるのは、ワーキンググループを設置して作成する方法があるが、その役割を担うのは事務局か。

小紫市長：ワークショップから良い意見が出るような出題の仕方や場づくりを考えなければいけない。ワーキンググループの設置は考えていないが、事務局と整理を行い、意見をまとめた。

ワークショップでは、2日間の合計5時間で開催する。テーマである「社会で生き抜く人材」についての意見にもいろいろあると思う。出た意見は事務局で整理し報告する。

(2) ワークショップの進め方について

ワークショップの概要について、教育総務課、真銅課長から説明

(質疑)

飯島委員：ワークショップのテーマは「社会で生き抜く人を育てる教育の在り方について」とのことだが、議論の中で「社会で生き抜く人」の要件がずれていて議論がかみ合わない可能性がある。社会で生き抜く人とはどのような人で、どのようにして育てるかということを集約した上で議論すべきか。具体的には、第1回ワークショップで「社会で生き抜く能力とは」について議論し、第2回では「社会で生き抜く能力を育てるために何をしたらよいか」について議論するなどである。

小紫市長：確かに、社会で生き抜く人や能力が何かについては多様な意見があると思うが、2回構成だと意見が拡散しまとまりにくいので、1回目の会議の意見を集約し、2回目の会議で内容を深めたい。

(3) その他

総合教育会議のスケジュールについて、教育総務課、真銅課長から説明。

(質疑)

小紫市長：資料には書かれていないが、10月の会議には大綱の素案を提示したいと考えている。さらに修正を加えた素案を1月の会議にも出し、3月には案の段階にまで持っていきたい。

中田教育長：前回の会議でも、学校現場やPTAなどの教育関係団体の声をいただきたいという話が出ていた。10月のワークショップの前に間に合うようであれば、協創の観点からも、そのような機会を設けたい。

小紫市長：その方向で考えている。1月には具体的な中身の検討段階に入ってしまうので、10月中に意見を聞く場を設けたい。

○閉会宣告

午後 2 時 8 分閉会